

事業所における自己評価結果（公表）

事業所名	narZE		
保護者評価実施期間	2026年01月12日 ～ 2026年03月12日	保護者評価有効回答数	(対象者数) 26 (回答者数) 26
従業者評価実施期間	2026年01月12日 ～ 2026年03月12日	従業者評価有効回答数	(対象者数) 10 (回答者数) 10
事業者向け自己評価表作成日	2026年05月17日		

分析結果

事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること

	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者評価・従業者評価ともに、個別支援計画の作成、共有、計画に沿った支援、記録、モニタリングが高水準で実施されており、児童一人ひとりの特性やニーズを踏まえた支援が安定して行われている。保護者からも『専門性のある支援』『計画に沿った支援』への評価が非常に高い。	今後は、個別支援計画の作成時に、本人支援・家族支援・移行支援・地域支援の各視点が、支援記録やモニタリング結果にどう反映されたかを見える化し、職員間で振り返る仕組みを強化する。ケース会議で支援の根拠を共有し、支援の質をさらに均質化する。
2	安全管理・非常時対応が非常に充実しており、事故防止、緊急時対応、防犯、感染症、BCP、避難訓練、ヒヤリハット共有などが体系的に実施されている。保護者からも安全面への信頼が高く、安心して通所できる環境が整っている。	今後は、災害時や感染症流行時を想定した訓練に加え、送迎中のトラブルやアレルギー対応、服薬確認の手順についても、実地訓練やロールプレイを取り入れて精度を高める。訓練後は振り返りを行い、マニュアルの更新につなげる。
3	保護者との情報共有や説明対応が丁寧で、運営規程、支援プログラム、計画内容、相談対応、通信やSNSでの情報発信まで幅広く実施されている。保護者との共通理解が形成されており、共感的な支援への評価も高い。	今後は、日々の連絡帳や面談に加えて、支援のねらい・家庭での関わり方・学校との連携内容を簡潔にまとめた個別のフィードバック資料を作成し、家庭で実践しやすい形で情報提供を強化する。

事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること

	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	従業者評価で『生活空間の構造化やバリアフリー、情報伝達への配慮』が57.1%と低く、職員間で環境整備の認識に差がある。保護者評価は高いが、現場では掲示物の見やすさ、動線、刺激調整、個別配慮の標準化が十分でない可能性がある。	活動スペース、静養スペース、個別対応スペースの役割を明確に分け、写真や色分け、視覚支援ツールを用いて構造化を進める。動線上の危険箇所やわかりにくい表示を定期点検し、職員全員で環境チェックリストを用いた見直しを行う。
2	従業者評価で『支援終了後の打合せ』『計画の職員間共有』『活動プログラムの固定化防止』『支援の振り返り』が57.1～71.4%と低めで、日々の支援を振り返る時間や共有の仕組みが十分でないことが課題と考えられる。	支援終了後に5～10分でも必ずミニ振り返りを行い、当日の成功例・困りごと・次回の工夫を記録する運用に改める。計画内容は個別ファイルや共有シートで全員が確認できるようにし、活動プログラムは週単位で複数案を準備して、固定化を防ぐ。
3	従業者評価で『第三者評価の活用』『学校との情報共有』『移行支援』『地域連携』『家族支援プログラム』『地域の他児との交流』などが57.1～71.4%で、外部機関連携や家族支援の機会が十分に広がっていない。保護者評価でも家族支援プログラムは77.8%と相対的に低い。	学校、相談支援事業所、児童発達支援センター、卒業後の移行先との連携記録を整備し、定期的な情報交換の機会を設定する。保護者向けにはペアレントトレーニング、学習会、交流会を年間計画に組み込み、兄弟参加型のイベントや地域交流の機会も具体的に企画して実施する。